

二八二四番

思おもふ人ひと 来こむと知しりせば 八や重へむぐら 覆おほへる庭には
に 玉たま敷しかましを

二八二五番

玉たま敷しける 家いへも何なにせむ 八や重へむぐら 覆おほへる小を屋や
も 妹いもと居をりてば

二八二六番

かくしつづ あり慰なぐさめて 玉たまの緒をの 絶たえて別わかれ
ば ずべなかるべし

二八二七番

紅くれなるの 花はなにしあらば 衣ころも手に 染そめ付つけ持もちて
行ゆくべく思おもほゆ